

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

タイムマシン



平成二年(1990)十一月十二日に、平成の御大典が行われました。御大典とは、天皇陛下が、天下に君臨を宣言する、一世二代のめでたいご盛儀のことです。昭和(裕仁)天皇から、明仁皇太子が第125代目として、天皇に即位されました。これを記念して、白鳥神社でも数々の事業が行われました。

本殿の周りに玉垣の設置、稲荷神社の大鳥居建立、灯籠、稲荷の守り神狐像各一对、ご寄付者一覧の看板設置、それにタイムカプセルを榊鞘堂前に埋設しました。このカプセルに入れた物は、この事業に献身的に奉仕された役員諸氏の御芳名を木簡に記したもので、当日の神事の祝詞、各代表のメッセージ、写真等とあり、これを天皇陛下即位の礼が行われたこの日に、埋設した、と白鳥区の書類に記されています。この開封は埋設から五十年後の令和二十二年(2040)と決められております。今から十八年後となります。埋設に立ち会われた方々の大半は鬼籍に移られて

いると思います。十八年後、時移り人変わりますが、この日を忘れずに、楽しみに開封し、そして身近な歴史に触れてみて下さい。

このカプセル開封時、愚生は丁度、百歳になります。多分、見る事は叶わないと思うと、少し残念です。

因みに令和の御大典は、令和元年(2019)5月1日に、第126代天皇徳仁として即位されました。

この時、神社の記念事業としては、境内にある戦捷記念碑周辺に玉垣の設置、稲荷神社本殿に鞘堂を建立しました。

稲荷神社



五月二日は当稲荷神社の例祭日であります。今年もコロナ禍で白鳥春祭りは開催が出来ませんでした。白鳥区が平穩無事である事と、コロナの収束を願って関係の役員諸氏と神社総代にて神事を執り行いました。

古木防護柵



白鳥神社の拜殿横に立っている高さ約5m余のさるすべり。直径約45cm、外周140cm。推定すると樹齢2000年位。この木は毎年

夏に赤い花を咲かせ境内を彩ります。

今迄は手入れ等しなくても元気が良かった。ところが、

一昨年夏、あまり花が咲かなかった。弱って来たのかと思いい、周囲に施肥をした。そしてこの12月31日、雪が30cmほど降り、その雪で大きな枝が折れました。今年は、湿った

重い雪の様でした。

この地方は、一晚に70〜80cmの雪が降る事はあった。それにも耐えてきたのだが……老いたのか？

何の手入れもしない事が、樹の勢いを落としたのか？ 高さ3m位の位置にある、太さ15cm程の枝が折れた。

早速、手当をしました。その甲斐あって枝は繋がり生き返った。この木の周りを人に踏まれない様にと柵を設けました。夏場に咲く我が神社の紅一点であります。

もう一本の古木は社務所前の大銀杏。秋になると横に立つ雌の銀杏が沢山のギンナンを実らせてくれる。



この大木の周囲も、人が多く歩き、地面は固まっている。雄の方は直径が130cm程、推定樹齢330年位。明治の白鳥大火は今から115年前ですが、この銀杏はその猛火にも耐えています。雄の大銀杏に乳房が3個ある。乳房が出来るのは樹齢数百年以上の古木

といわれます。銀杏は信仰の樹でもあったようです。戦前戦中、戦後は食糧難の時代。栄養失調で母親の乳は出ない人が多かった。今の様に、代用の人工乳の無い時代。このチチは藁にもすがる気持であった由。

チチを削って煎じて飲んだり、ご飯に混ぜて食べた。

又、チチを撫でたり、拜んで祈願した。これ等の事が全国であった様です。由緒ある古木である。この木の周囲も柵で囲い、踏み固めない様にしました。古木にしめ縄を張り大事にしたいと思えます。

境内草刈り

七月十七日、白鳥神社境内と秋葉神社周辺の草刈り、花木の剪定作業を、総代衆と関係者で行いました。幸い、前夜来の雨も上がり、神社の森の中、数台の草刈り機のエンジン音が響き渡り、夏草を刈り上げました。別部隊は、境内の入り口付近、池の周り、戦捷碑にある花木の剪定を行い、短く刈り込み夏スタイルに仕上げました。真夏は雑草が養分を蓄える時期なので、この時期に雑草を刈り取らなければ、養分は大切な木の方に廻らず、成長が阻害されます。

又、土用の期間には、土いじり、草刈り、地鎮祭等、土に関する事が忌み嫌われます。今年の夏土用は七月二十日（八月六日）です。この期間は土公神（土を司る神様）が支配する期間で土に関する事、新しい事、移動する事などが嫌われる風習があります。土用は年に四回あり、冬土用、春土用、夏土用、秋土用と



それぞれが十八日間です。今でもこれを考慮する人もおられます。

又、古い縁起札を収める

札堂が満杯になり、宮司のお祓いを受け、左義長を行いました。この札堂は、約半年で満杯になります。近辺にこういう施設がないのか、地区外からも参拝しながら入れて行かれる。全員が汗びっしょりとなり、午前中で作業を終わらせました。お昼は社務所前で暑気払いのバーベキューで、お互いに労をねぎらいながら英気を養いました。猛暑の中で、熱中症にもかからず、本当にご苦労様でした。

御寄進・ご奉仕

- 一、社務所玄關タイル補修……………曾我 誠様
- 一、境内古木保護柵設置……………足立 好教様
- 一、同右・ミニ掘削機無償提供……………西村石材店様
- 一、神倉屋根植修繕……………足立 好教様
- 心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

令和四年八月からの主な行事予定

- 一、8/1……………宮の森29号発行
- 一、8/16……………境内盆踊り
- 一、8/17……………拝殿踊り
- 一、8/19……………例祭関係者合同会議
- 一、9/5……………例祭大神楽稽古始め
- 一、9/18……………例祭神事（旧暦）
- 一、9/23……………例祭準備
- 一、9/24……………秋葉神社例祭・白鳥神社例祭試案
- 一、9/25……………白鳥神社例祭本案
- 一、10/23……………宮掃除
- 一、11/3……………初宮・七五三 神事
- 一、11/19……………神送り
- 一、11/23……………新嘗祭・左義長神事
- 一、12/18……………新年準備作業
- 一、12/31……………正月初詣準備・徹夜態勢に入る

十年を振り返る……………瀬木重瀧

白鳥神社総代長を十年務めさせていただきました。十年前の四月、総代一年生での初会議、そこは総代長を選ぶ会議でした。総代長は、古参総代がやるものばかり思っていた。談合で決まらず、選挙となりました。以外や！己が当選した。何だ、何だ、なんだ！右も左も、上も下も解らない己がかよ！理不尽を通り越して、無茶苦茶だ！神社総代長はその程度かよ？民主的な選挙で？無理やり押し付けられた。……………開きなおりました。己流にやるが文句があれば即辞めると宣言。

一年目（平成24年）は、例年の行事を消化するのに精一

杯。でもこの一年で、あらかたを掌握。

一年目からは自分流を前面に出し、改革に挑んだ。

HP立ち上げ神社報「宮の森」を創刊、情報発信開始。稻荷神社の護持運営を奉賛会より引き受ける。御神木の樺でお守り札、屋号の作成。哲学者、梅原猛先生を迎えて、円空物を御開帳。奉納大芸芸会復活開催。二年目、例祭で浦安の舞を始めて奉納。

四年目、秋葉神社拝殿が大雪で大破、総代衆で修理。五年目、境内に井戸を掘り、常時手水場に水を出す。六年目、秋祭りフォトコンテスト開催。幟旗一対新調。七年目、宮の森の大杉を間伐、稻荷神社鞘堂を建立。八年目、稻荷神社参道横に花壇を設置、整備。九年目、令和御大典記念で玉垣を建立。

白鳥踊り発祥祭を始めて神社で開催。十年目、境内前面に敷砂利（瀬上建設様協賛）

後半一年はコロナ禍で多くの行事が縮小、中止を余儀なくされましたが、伝統の大神楽は歴史をつなぎました。これ等が独断偏見の結果ですが御批判もありました。多くの人に迷惑もお掛けしました。十年を機に退任させて頂きました。良き人達にも恵まれ、多くの事を学ばさせて頂きました。ご協力に感謝です。有難うございました



御朱印受付

ご希望の方は0575-18214387・瀬上まで

（文責・瀬木）